

▷ 編集後記 ◁

今号では、今村法律研究室においても長年にわたって活躍をされ、2018年3月をもってご退職なされました日高先生・矢澤先生にそれぞれお願いをして開催されました、「日高先生を囲む会（2018年2月20日実施）」・「矢澤先生を囲む会（2018年2月22日実施）」の模様を、質疑応答も加えて載せさせていただきました。

日高先生には、今村法律研究室が創設されて間もない頃の、貴重なお話しをいただくことができました。特に、訴訟記録を発刊することになった経緯、それに纏わる人的・物的・金銭的などの様々な事柄は、当研究室史と言うべきものであり、このタイミングでお聞きできたことは大変有難いことだと思っています。先生のお話しの中で、「民事事件については手つかずです」との言葉がありましたが、この件については前々から当研究室の運営委員会でも話に出ていたことでもあり、訴訟記録刊行の今後を考える中でも懸案でありました。そろそろ、「手つかず」に残されている民事事件記録の保存・活用を含めて議論する時期に来ているのだと思います。これは日高先生から今研に出された宿題でしょう。様々な可能性を探りながら、調査をしていきたいと考えています。

矢澤先生は、当研究室の主催で冤罪に関するシンポジウムを何度も開催され、その模様も幾度か室報でお伝えしてきました。今回はその集大成ともいえる、先生が弁護士登録をして以降の数々の事件と、それに向き合う真摯な姿勢をお話いただきました。再審や死刑については、先生が「囲む会」でお話しされて以降、様々な動きがあり（これにつきましては、先生が原稿内で補足してくださっています）、社会的関心も高まっていることでもあります。司法界の動きも含めて考えておかねばならない問題であることを、実感いたしました。

両先生には、ご多忙の中、原稿の確認などお時間をとっていただきましたこと、あらためて御礼申し上げます。ご退職されたとはいえ、室員につきましてはご継続いただきましたので、今後どうぞよろしくお願い申し上げます。

[事務局 坂詰智美]

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 専修大学今村法律研究室

発行者 内藤光博

電話 (03) 3265-6217(代)

制作・尚学社／〒113-0033 東京都文京区本郷1-25-7 電話 (03) 3818-8784
